

## 特別調査事項

### 「取引先金融機関の貸出姿勢」について

特別調査事項として、取引先金融機関の貸出姿勢について県内中小企業に聞いたところ、次のような結果となった。

1年前と比べた現在の取引先金融機関の貸出態度は、「厳しくなった」が17.2%で、前年に比べ3.1ポイント減少し、2年連続で前年より減少した。

貸出態度が厳しくなったとする理由は、「新規貸出の拒否」(54.9%)が最も多く、次いで「担保・保証条件の厳格化」(36.3%)、「融資申込額の減額」(27.4%)、「金利引き上げ」(21.2%)となっている。

「中小企業金融円滑化法」に基づく貸付条件の変更等の申込状況については、全体の84.3%が申し込んでいない。一方、「申込みして変更が実行された」(12.8%)、「審査中」(1.6%)、「申し込んだが変更できなかった」(1.3%)となっている。

申し込まなかった理由については、「借入の返済に特に支障なし」(49.8%)が最も多く、次いで「経営の抜本的な改善にならず」(22.6%)、「今後の借入への悪影響を懸念」(9.7%)となっている。

#### (1) 1年前と比べた、取引先金融機関の貸出態度

「ほとんど変わらない」	77.6%
「厳しくなった」	17.2%
「緩やかになった」	5.2%

#### (2) 貸出態度が厳しくなった理由(複数回答)【(1)で「厳しくなった」と回答した企業】

「新規貸出の拒否」	54.9%	「担保・保証条件の厳格化」	36.3%
「融資申込額の減額」	27.4%	「金利引き上げ」	21.2%
「審査期間の長期化」	19.0%	「繰上返済の要求」	8.0%
「その他」	3.1%		

#### (3) 「中小企業金融円滑化法」に基づく貸付条件の変更等の申込み

「申し込んでいない」	84.3%	「申込みして変更が実行された」	12.8%
「審査中」	1.6%	「申し込んだが変更できなかった」	1.3%

#### (4) 申請しなかった理由【(3)で「申し込んでいない」と回答した企業】

「借入の返済に特に支障なし」	49.8%	「経営の抜本的な改善にならず」	22.6%
「今後の借入への悪影響を懸念」	9.7%	「取引先への悪影響を懸念」	0.6%
「その他」	17.3%		

(1)、(2)については、平成14年から毎年調査を実施している。

(3)、(4)については、今回初めて調査を実施した。

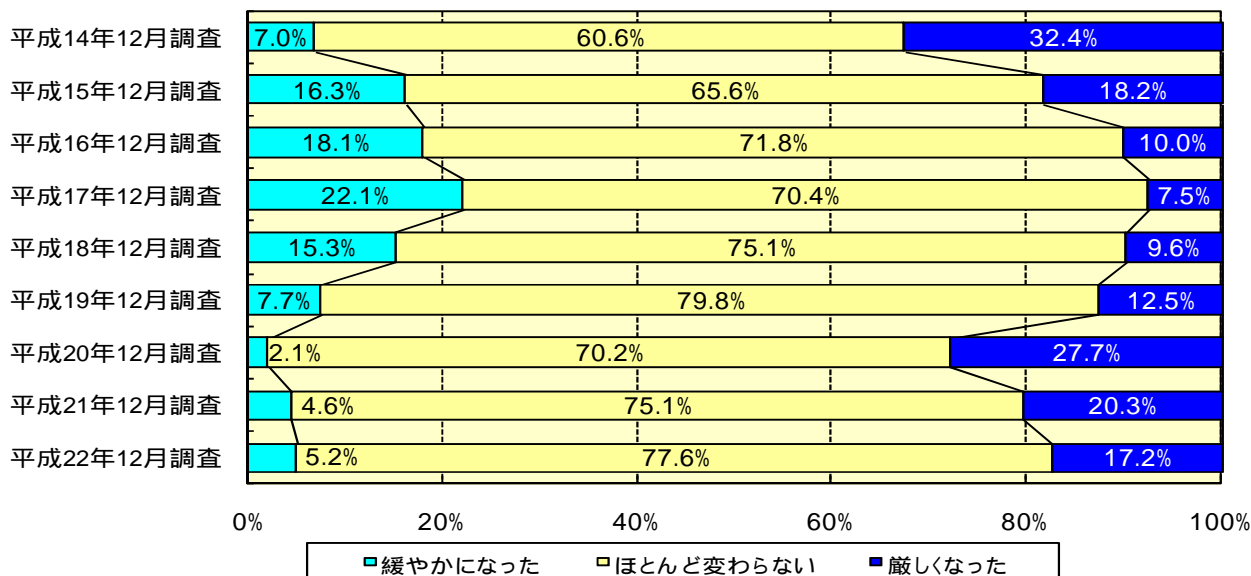
本文中の数値については、グラフの他、アンケート調査集計表(51頁以下)を参照してください。

(1) 1年前と比べた現在の取引先金融機関の貸出態度 (集計表P51参照)

全体では、77.6%の企業が「ほとんど変わらない」とする中、「厳しくなった」が17.2%で、前年に比べ3.1ポイント減少し2年連続で前年より減少した。

また、「緩やかになった」は5.2%となり、前年より0.6ポイント増加した。

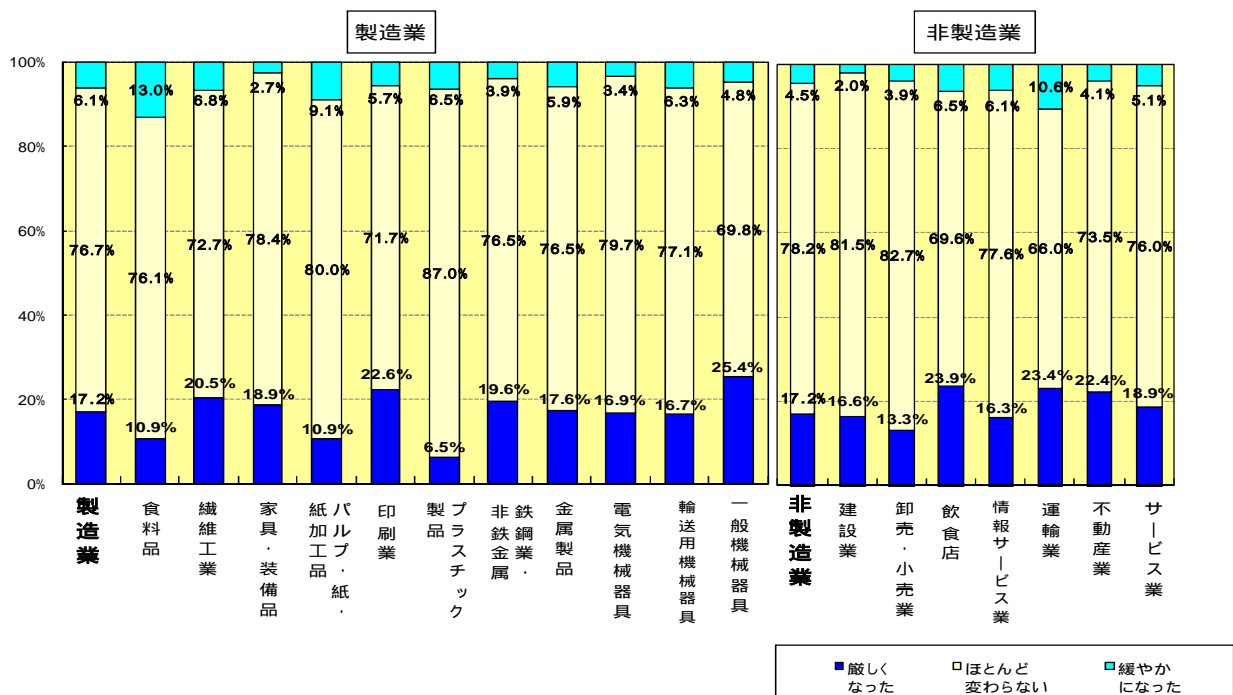
取引先金融機関の貸出態度 (全体)



業種別にみると、製造業と非製造業の違いは、ほとんど見られなかった。

内訳をみると、「厳しくなった」とする企業の割合が高い業種は、製造業では「一般機械器具」(25.4%)、「印刷業」(22.6%)、「繊維工業」(20.5%)、非製造業では「飲食店」(23.9%)、「運輸業」(23.4%)、「不動産業」(22.4%)の順になっている。

取引先金融機関の貸出態度 (業種別)



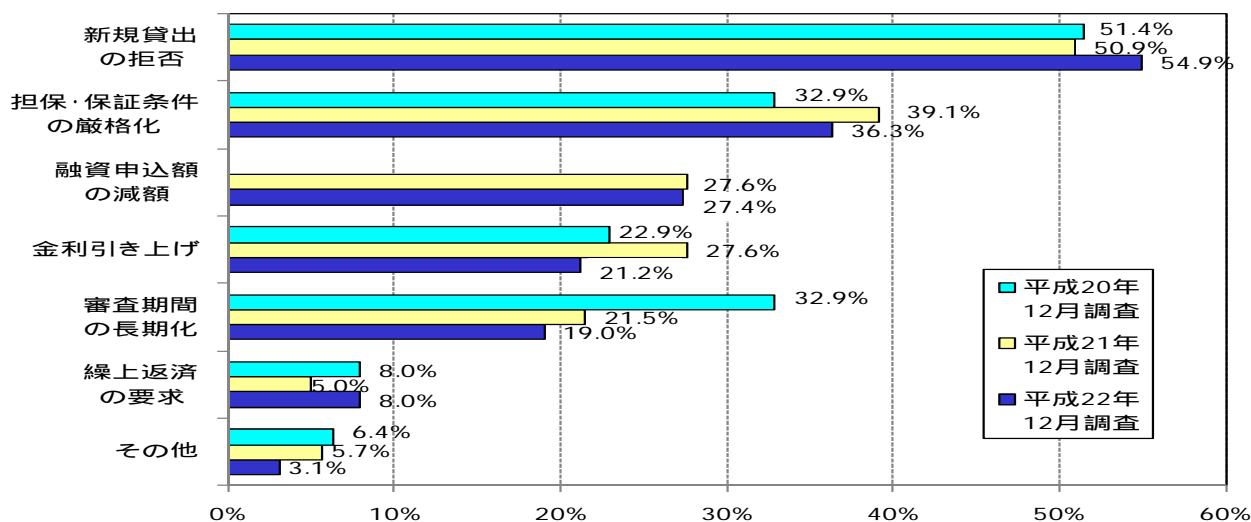
(2) 貸出態度が厳しくなったとする理由【複数回答】 (集計表P52参照)

(1)で、貸出態度が「厳しくなった」と回答した企業に、その理由を聞いたところ、全体では、「新規貸出の拒否」(54.9%)が最も多く、次いで「担保・保証条件の厳格化」(36.3%)、「融資申込額の減額」(27.4%)、「金利引き上げ」(21.2%)と続いている。

前年との比較では、「新規貸出の拒否」(4.0ポイント)、「繰上返済の要求」(3.0ポイント)が増加した。

一方、前年より減少したのは「金利引き上げ」(6.4ポイント)、「担保・保証条件の厳格化」(2.8ポイント)などとなっている。

貸出態度が厳しくなったとする理由(全体)【複数回答】

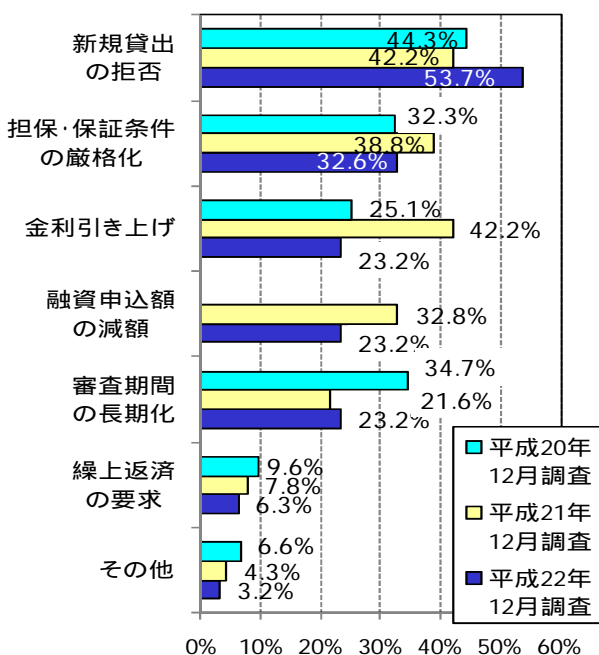


「融資申込額の減額」は平成21年12月調査で新しく設けた選択肢

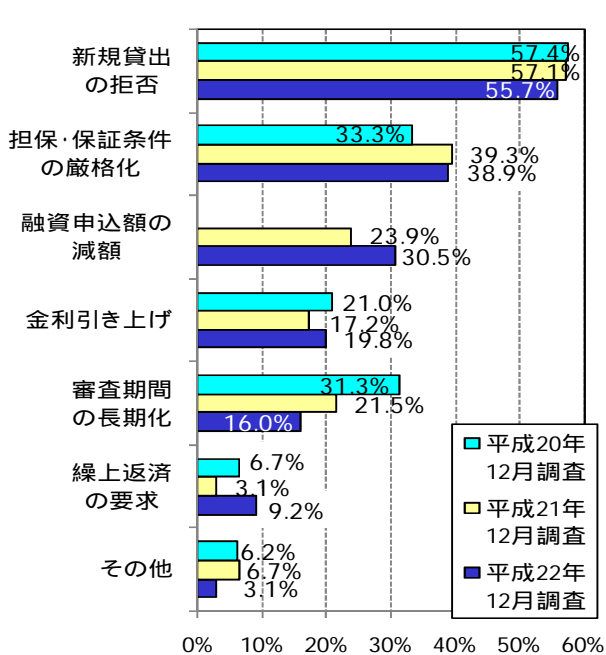
業種別にみると、製造業では「新規貸出の拒否」が53.7%で最も多く、前年より11.5ポイント増加した。「金利引き上げ」は前年より19.0ポイント減少した。

非製造業では、「新規貸出の拒否」が前年より1.4ポイント減少したものの、55.7%と最も多い。「融資申込額の減額」は30.5%と前年より6.6ポイント増加した。

厳しくなった理由とする(製造業)【複数回答】



厳しくなった理由とする(非製造業)【複数回答】

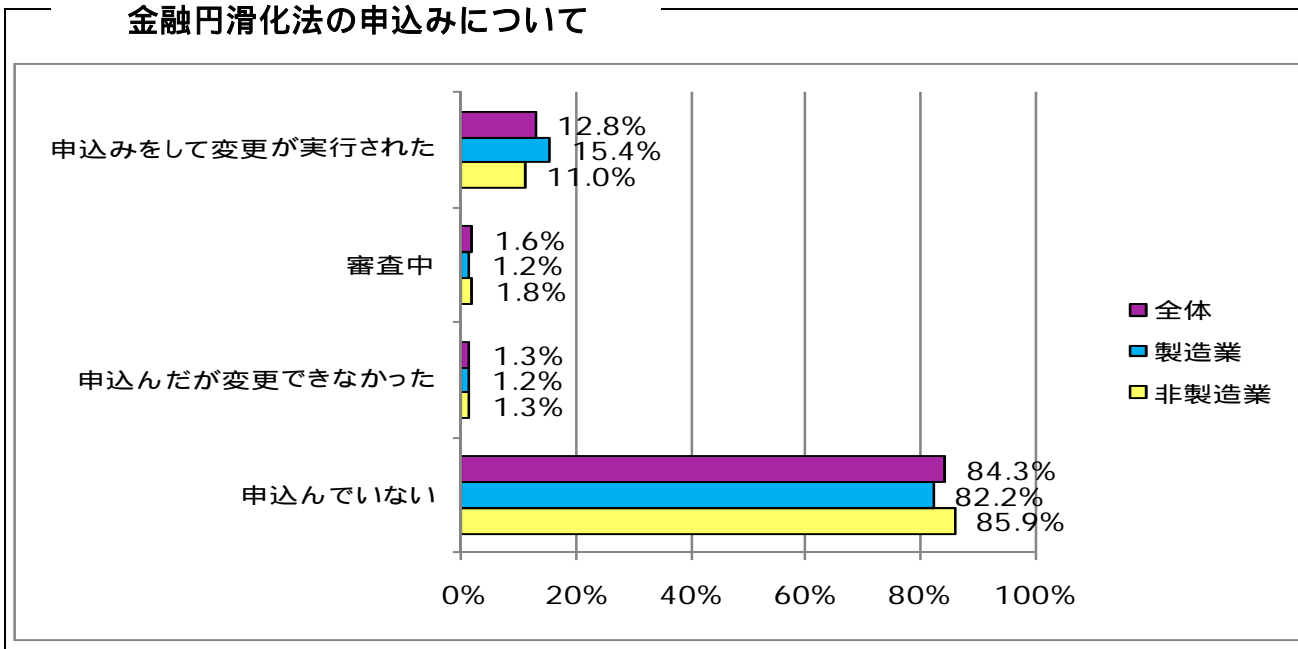


### (3) 金融円滑化法の申込みについて (集計表P53参照)

「中小企業金融円滑化法」に基づく貸付条件の変更等の申込状況については、全体の84.3%が申し込んでいない。一方、「申込みして変更が実行された」(12.8%)、「審査中」(1.6%)、「申し込んだが変更できなかった」(1.3%)となっている。

業種別にみると、製造業では「申込みして変更が実行された」は15.4%であり、非製造業の11.0%を4.4ポイント上回った。

金融円滑化法の申込みについて



### (4) 申込みをしなかった理由について (集計表P54参照)

申込みをしなかった理由を聞いたところ、全体では「借入の返済に特に支障なし」(49.8%)が最も多く、次いで「経営の抜本的な改善にならず」(22.6%)、「今後の借入への悪影響を懸念」(9.7%)と続いている。

業種別にみると、製造業では「借入の返済に特に支障なし」(53.8%)が最も多く、次いで「経営の抜本的な改善にならず」(23.5%)と続いている。

非製造業では「特に支障なし」(47.0%)が最も多く、次いで「経営の抜本的な改善にならず」(22.0%)と続いている。

申請しなかった理由について

